

# 石見銀山攻略法

## ～観光情報提供ツールの提案～

広島大学 社会基盤計画学研究室、交通工学研究室  
山口大学 都市・社会システム工学研究室  
鳥取大学 都市計画研究室

## 石見銀山とは・・・

島根県西部に位置する日本最大の銀山であり、アジアとヨーロッパの東西文明交流に影響を与え、自然と調和した文化的景観を形作っている産業遺産として2007年に世界遺産に登録された。

### 歴史

石見銀山の銀は、世界の経済や文化の交流に大きな影響を与えた。銀を生産していた時の坑道や工房の跡が遺跡としてよく残っている。時代ごとに銀山の歴史に深く関わる建造物も多く残る。

### 町並み

銀を生産していた当時の鉱山町や港町には、今でも人々が住んでいる。当時の政治経済の中心だった大森地区には、代官所や武家屋敷が残っており、往時を偲ばせる古い町並みが続く。

### 自然

石見銀山は、自然との共生も評価されて世界遺産となった。仙ノ山を中心として広がる豊かな自然は、観光地となった今も地域の人々によって守られている。



鉱山に関する遺跡と豊かな自然環境が形成する世界的にも貴重な文化景観に触れることができる

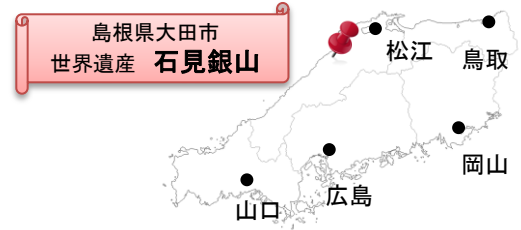
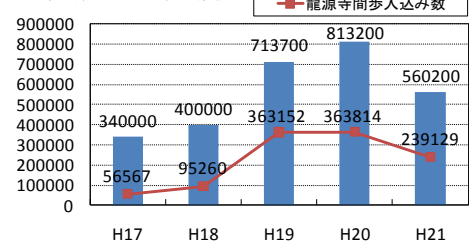


一見して価値は分かりにくい、多くの世界遺産としての価値を有している

## 観光地としての現状

- 世界遺産登録後、増加していた観光客数は減少傾向に。
- 島根県北部に位置しており、アクセス性に難あり。
- リピーターは少なく、新規の観光客が多い。
- 観光客数を増やしたいと強く願ってはいないものの、石見銀山の価値や魅力を深く理解して欲しいという地元の願いがある。

石見銀山入込み数の推移



## 問題点

多様な価値を全て伝えようと、情報を一つのマップに凝縮するため、観光マップ上において情報が混在

- ⇒ 情報が混在しているため、観光客が混乱
- ⇒ 石見銀山の世界遺産としての価値を理解できないまま観光終了
- ⇒ 価値が十分に伝わらないため、観光客の再来訪の意向減少

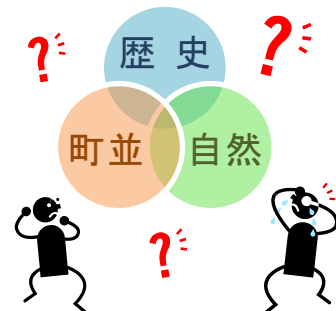
## 提案の目的

### 観光客側

石見銀山の多様な価値を、これまでよりも理解しやすくする  
要素ごとの理解という明確な目的を達成することで、満足度の向上を図る

### 観光地側

石見銀山の世界遺産としての価値を観光客に理解してもらうことで、観光地の満足度を高める  
リピーターの増加を図る



既存のマップ

# 情報提供ツールの提案

石見銀山の価値を「歴史」、「自然・山歩き」、「町並み」の三つの要素に分類し、理解する要素を明確化させるマップ&映像を提案

- ⇒ 要素ごとに価値を整理
- ⇒ 一つの要素についての価値を十分に理解し、観光終了
- ⇒ まだ理解していない他の要素を理解するために、観光客の再来訪の意向増加



歴史マップ 表紙



町並みマップ 表紙



自然・山歩きマップ 表紙

## 情報提供ツールの特徴

### 歴史マップ

- 歴史に関連する場所の時代を整理
- 時代を時系列に沿って回るルート、石見銀山最盛期の江戸時代に特化して回るルートの2ルートを提案
- 時代を時系列に沿うことで、観光客の石見銀山の歴史の理解を促進
- 石見銀山の中で最大規模の大久保間歩を含むルートは、コース長が長いいため、江戸時代に特化することで、観光客の負担を低減

### 町並みマップ&映像

- 既存のマップで紹介されている場所をより詳細に説明
- 既存のマップでは紹介されていない場所を取り上げ、解説だけでなく、写真付きのマップを作成
- マップに対応させた映像も作成

映像を付加することによって

- 町並みの全体的な雰囲気を味わえる
- マップで特定の場所の詳細な情報を得られる

### 自然・山歩きマップ

- 既存マップにはない自然に特化した情報を記載（石見銀山に所縁のある植物を写真付きで紹介）
- 記載する観光スポットを限定
- 自然・山歩きマップ内で、更に観光時間や観光客の興味に合わせた詳細なルートを提案
- 登山の詳細なルートと注意点を記載
- 歩道の写真を多用し、自然を楽しむことを目的とした歩く観光を推進



歴史マップ



町並みマップ



自然・山歩きマップ

## 石見銀山攻略法を普及させるために・・・

### マップの効果の検証

石見銀山に初めて訪れた観光客に対して、マップを活用してもらう。その後、聞き込み調査、アンケート調査を行い、石見銀山の世界遺産としての価値の理解度、再来訪の意向等を問い、マップの効果を検証する。

### マップを周知させるための、置き場所の検討

マップを周知させるための置き場所としては、各マップ共通のスタート地点である石見銀山公園や、石見銀山公園に近く、駐車場がある世界遺産センターが考えられる。また、スマートフォンなどでも、マップ・映像などの情報を得られるようにするという方法も考えられる。